

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590101111		
法人名	株式会社 聖大		
事業所名	グループホーム 年輪		
所在地	宮崎市大字恒久5983番地1		
自己評価作成日	令和2年10月14日	評価結果市町村受理日	令和3年1月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action=kouhyou_pref_search_list_list=true">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action=kouhyou_pref_search_list_list=true</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	令和2年11月10日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新規企業に代わって、まだ間もないですが利用者様が喜んで安心して笑顔の絶えない施設になるように検討してまいります。分からない点が多いですが、一つ一つご家族のご協力などを頂きながら、職員一丸となって運営してまいります。最近は地元の方とも雑誌が出来るようになりましたので、今後は運営などもご指導頂こうと思っています。自治会長さんへの挨拶にて色々と地元の情報を勉強、協力させて頂き、地域の施設と認めていただけるように努力いたします。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

代表者、管理者、職員は利用者本位の生活を優先し、一人ひとりの尊厳と自立を支え、家族の協力の中、方針等を共有するよう取り組んでいる。認知症により、当惑感や不安の強い利用者が安心感、安定感を持てるように状態の安定、その人らしさの回復を図る支援を行っている。また、周囲には、医療機関が多数存在しており、医療体制の充実や就業環境の整備にも努めている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づき日々の現場において実施している。	管理者、職員で理念を作成して、尊厳と自立を支え楽しく笑って過ごせる暮らしを目指し、全職員が業務開始前に理念を読み上げ、ケアの実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事などに、利用者、職員と一緒に参加し、近隣の病院など交流をしている。	散歩時やウッドデッキから近隣住民に挨拶を交わしている。市の一斉清掃には利用者と職員も参加して一緒にゴミ拾いをしたり、地域の関係者等に、ホームの近況報告を行うなど地域交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護の相談はいつでも受けられるよう地域との交流の中で伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を行い、利用者の状況や職員の取組など報告している。	感染症防止のため、構成員や家族にホームの近況状況報告を送付し、意見、要望を回答書にて返送してもらい、出された意見をサービス向上に生かすよう取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	利用者の受け入れ、手続きについての相談など連携を図り、事業所の姿勢など伝えている。	ホームの実情やケアの取組を伝え意見を聞くなど、市担当者と協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修に参加し、資料など用い職員が理解し、それに取り組むよう努めている。	身体拘束対策委員会、内部研修で勉強会を開催し拘束のないケアに取り組んでいる。帰宅欲求のある利用者には、外出の原因を探り、利用者の特性に合わせたケアができるよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修で得た資料や情報を職員で周知し、虐待防止の徹底に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している利用者があり担当の方と交流することがあり、学ぶ機会を得ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は個別で説明し、同意を得て締結している。改定は家族に理解を得てから実施している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が面会に来られた時に意見や要望などあれば管理者に報告し、職員が把握できるようにしている。	気兼ねなく話し合える関係を築くよう努め、意見や要望など運営に反映させるよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送りの中で、意見や提案を聞けるよう職員とのコミュニケーションを大切にし、サービスの向上に努めている。	職員間の関係を良好に築くよう努め、意見や提案を聞き、運営に反映させるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は意見や要望に的確な指導があり、良好な関係性を保つことができている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が研修に参加できるよう、参加の声掛けを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は他施設との交流する機会をつくり、勉強会を実施し、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と会話をし不安、要望に耳を傾けながら関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族としっかりコミュニケーションをとり不安、要望を聞き、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	時間をかけ話し合い、その都度必要としている支援を見極め対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者への敬意を忘れず、一方の立場におかないよう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族とも積極的に交流し、本人の状況を伝え対応を考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人、場所との関係が途切れないよう支援している。	近隣の散歩や稲刈りを見学したり、家族の訪問や自宅外泊を支援するなど関係継続の支援に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者それぞれの相性に配慮しながら支え合えるよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された家族から、連絡や相談があれば対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	らくがき帳を希望されれば購入したり、本人が好みそうな飲み物(コーヒーやスポーツ飲料など)を提供したり、意向の把握に努めている。	人格を尊重し、本人のこれまでの経験を生かしたケアを行っている。職員は言葉かけや認知症を理解した穏やかな態度で共に支え合いながら思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時はもとより、面会時も本人の以前の生活や好みなど聞くように努め、得られた情報を個人記録に書いて他の職員と共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日中の様子で変化があれば個人記録に記入し、気になる声があれば申し送りファイルに記録する。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族から毎日新聞を読まれていた、可能であれば歩行訓練を、など意見があれば実施し、ケアプランに反映させている。	作成者や職員、訪問看護師等とカンファレンスを行い、家族にも訪問時や電話等で話を聞き本人の現状に合った介護計画を作成し、随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録や申し送りのファイルを通して、情報の共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ドライブ、ラーメンが食べたいと言われれば可能な限り行き、食事のメニューや入浴の要望があれば予定を変更して臨機応変に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお祭りや病院の行事があれば参加している。散歩や一斉清掃の時は、近所の方と話をすることもある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	多くの利用者が近所の病院がかかりつけ医になっており、月1回の往診がある。その他の利用者は受診時、必要あれば情報の提供を行っている。他に歯科訪問診療も取り入れている。	希望する医療機関での受診であるが、多くの利用者が近所の病院をかかりつけ医としている。周囲には医療機関が多数存在し、緊急時の医療支援が受けられるよう協力関係を築き、受診支援に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のバイタル測定とや体調の変化を連絡し、指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に至るまでの様子を主治医に報告し、入院中の様子は主治医往診時か、病院関係者に連絡して聞くように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りの方針を家族に説明・ご理解頂いているが、状態の悪化や入院時に改めて希望に沿った生活になるよう、しっかり話し合いを行っている。	入居時に重度化した際の方針について説明を行っている。状況に応じて随時、本人、家族の意向を重視した終末期における支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホームにAEDを設置し、急変時にはすぐに対応出来るように、各利用者のファイルを電話のそばに置いている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月1回、様々な災害を想定した訓練を行っており、定期的に地域の方にも参加頂いている。	毎月1回の避難訓練、年2回は地域住民の協力の下、防災訓練を実施している。防火カーテンの設置や防災管理責任者を配置し、安全管理が行われているが、事前の備えや対策、体制が十分とは言い難い。	防災の基本である事前の備えや対策、早目の行動をとれる体制の強化に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者それぞれが慣れ親しむ、安心できる様な声掛けを行っている。	丁寧な声掛けと語調に気をつけながら支援している。利用者に寄り添い尊敬と敬愛の気持ちを持って対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆっくり談笑する機会を持ち、本人の意思や希望などを傾聴するよう務めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩やベランダを希望されれば支援し、眠そうにされていれば自室で休んで頂いている。入浴は無理強いしない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自立されている方は、入浴時は自身で衣類を選んで頂いている。また、職員と一緒に洋服を選ばれるように支援したり、起床時は櫛やタオルを提供している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理スタッフが各利用者に声掛け、好みの食べ物があれば献立を変更している。テーブル拭き、お盆拭きは利用者到手伝って頂いている。	調理師が調理を担当し、利用者と職員で誕生日のケーキの飾りつけや出来る範囲での準備や食事の片付けをしている。調理方法や盛り付けも利用者に合わせて食事を楽しめるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理スタッフが各利用者の提供する食事量・形態を把握しており、食事量・水分量はチェック表や個別記録に記入している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月1回の訪問歯科により、口腔内の状態やケアの方法についてアドバイスを頂いている。食事前に口腔体操を行う事もある。状態に変化や気になる点があれば歯科に連絡・相談している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレで排泄ができる様にパターンの把握をしている。トイレへのサインを見逃さないよう気をつけている。	利用者に合った排せつパターンの把握に努め、トイレでの排せつを支援している。状態に合わせた下着等の使い分け、羞恥心等に配慮しながら不快感なく過ごせるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を職員で共有し、食事や水分に気を付け、予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の入浴希望や心身の状態に応じて柔軟に対応している。	利用者の心に寄り添い、無理強いをしないで希望に合わせ、くつろいだ入浴が出来るように支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節に応じて冷暖房の調節をし、安眠できるよう取り組んでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報をファイルにまとめ職員で共有できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	残存能力を生かし、清掃手伝い、家事手伝いをしている。気分転換に散歩や外食の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所への散歩やイベントなど参加できるようにしている。また本人の希望がある場合は計画を立て外出できるように支援している。	可能な範囲で、近隣での散歩や市民一斉清掃に利用者と参加したり、家族の協力の下、自宅外泊をするなど外出支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自身にて管理できる方にはしてもらっている。(小銭程度)基本は施設管理でやっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話・手紙の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて飾り付けをしている。共用の空間は居心地よく過ごせるよう毎日清掃を行っている。	共用空間に花を飾ったり作品を掲示するなど、利用者がくつろいで過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室やホール、ペランダなど自身で過ごせるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた物を居室に置き、心地よい生活ができるように工夫している。	利用者一人ひとりが使い慣れた物を持ち込んで、安心して過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日常生活の中で危険個所の無いように気を付けている。バリアフリーであり手すり等設置し、安全面に工夫している。		